

国語

試験時間 四十分

「解答はじめ」の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

【注意事項】

- この試験は、すべてマークシート方式です。
- 問題冊子の中に、解答用紙があります。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手をあげて監督者に知らせなさい。
- マークシート記入上の注意

- マークはHBの黒鉛筆で、(例1)の良い例のように枠の中をぬりつぶしなさい。
- 受験番号は、(例2)に従って記入し、それぞれの番号をマークしなさい。
- 解答の記入方法は、たとえば「ア」と表示のある問いに対し「2」と解答する場合には、(例3)のように「ア」のマーク解答欄にマークしなさい。
- 訂正するときは、消しゴムできれいに消し、マークシート上に消しくずを残してはいけません。

(例1) マークの仕方 (例2) 受験番号 1202の場合 (例3) 解答の記入方法

良い例	
悪い例	

受験番号			
1	2	0	2

問題	マーク解答欄				
ア	1	2	3	4	5

四 「解答やめ」の指示で記入をやめ、筆記用具を机上に置きなさい。

五 「解答用紙」だけを監督者が回収します。指示があるまで着席していなさい。

とを実感させる効果がある。語りは大事な教育だったのです。^④

日本では最近、絵本を読んで聞かせることを「読み聞かせ」と言いますが、「(s)」と言ったほうがそのコウイの本来の意味に近いのかもしれない。

子どもたちのために心を込めて語り、子ども同士の心を作品の世界の中で結ばせ、少し騙して、最後に現実に戻ってこさせる。語り婆の昔語りや、神話や童話、絵本の世界は、まさに「かたる」という言葉の意味が全て入っているのです。

(u)、「はなす」は、「話す」だけでなく「離す」とも書きます。つまり心と心が分かれていくことを意味します。アナウンサーがニュースを読むときのあのしゃべり方を「はなす」と呼ぶようになってから、「話す」が広がったのだと柳田は述べています。

囲炉裏端で皆で語る、焚き火を囲みながら皆で語る。そうしたことが人間にとってはとても大事なことでした。^⑤

「学ぶ」ときの言葉は、知識をただ増やすだけのものでは子どもたちの心に届かない。「書き言葉」ではなく「話し言葉」であり、(v) 言えば「語り言葉」であることが、子どもたちの「心をよさぶる」のだと思います。学びの場にも、「かたる」の復権が必要です。

(汐見稔幸『教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと』河出書房新社による)

問七 傍線部(1)「谷へとどろめきて、逃げ行く音す」とある。これはどのような様子を表しているか。最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 普賢菩薩に化けていたものに仏のぼちが当たり、音をたてて谷底に落ちていった様子。
- ② 普賢菩薩に化けていたものに矢が当たり、大きな音がして逃げだした様子。
- ③ 普賢菩薩に化けていたものが矢をはね返し、周りの動物が大きな音をたてて逃げた様子。
- ④ 普賢菩薩に化けていたものが正体を現して音が響いたので、聖たちが逃げだした様子。

問八 傍線部(m)「実の仏ならば、よも矢は立ち給はじ」の口語訳として最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 本当の仏ならば、きっと矢がお刺さりになるにちがいない
- ② 本当の仏ならば、おそらく矢はお刺さりにならずに消えてしまうだろう
- ③ 本当の仏ならば、まさか矢がお刺さりになることはないだろう
- ④ 本当の仏ならば、まるで矢など刺さっていないようにお見せになるだろう

問九 次の①から⑤までの中から本文の内容と合致するものを一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 聖は、自分のことを気にかけてくれる獵師に感謝しているため、自分にだけ見える普賢菩薩の姿を見せてあげようと考えた。
- ② 獵師は聖の話について半信半疑だったが、無邪気に喜ぶ聖の気持ちに配慮して、信じているように話を合わせた。
- ③ 修行を積んでいても知恵が無ければ化かされるし、たとえ無学でも知恵があれば化け物の正体を見ぬけるものである。
- ④ 獵師にも童にも普賢菩薩の姿は見えなかったが、高德の僧である聖が言うならば真実に違いないと素直に信じた。
- ⑤ 獵師は、童に見えたならば自分にも普賢菩薩が見えるだろうと期待して起きていたが、偽者だったのでがっかりした。

問三 傍線部(d)「えぶくろに干飯など入れて」を現代仮名遣いに直してすべてひらがなで書いたものとして最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、**フ**にマークしなさい。

- ① えぶくろにおいしいなどいれて
- ② えぶくろにほいしいなどいれて
- ③ いぶくろにおいしいなどいれて
- ④ いぶくろにほいしいなどいれて

問四 傍線部(e)「いみじく貴き事」とある。その具体的な内容として最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、**ヘ**にマークしなさい。

- ① 久しぶりに獵師に会うことができたというたいへんめでたいこと。
- ② 食料を持ってきてくれた獵師の心ばえがたいへん優れていること。
- ③ 毎晩、普賢菩薩が自分の前に現れるというたいへんありがたいこと。
- ④ 修行の結果、お経をよく理解できたというたいへんすばらしいこと。

問五 傍線部(h)「獵師」とある。獵師が思った内容に「 」をつける場合、「我も」からどこまでか。最も適切なものを傍線部①から④までの中から一つ選んで、**ホ**にマークしなさい。

- ① ある
- ② 起き居たり
- ③ 今や今や
- ④ 過ぎぬらん

問六 傍線部(k)「経の向きたる方も知らぬに」とある。どういふことか。最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、**マ**にマークしなさい。

- ① 神仏を信じておらず、現実主義だということ。
- ② 仏の教えにそむく暮らしをしているということ。
- ③ 仏がどこから来るのかわからないということ。
- ④ 仏教の修行が十分ではなく、無知だということ。

問一 傍線部(c)・(d)・(f)・(t)・(w)と同じ漢字が用いられているものを後の①から⑤までの中からそれぞれ一つずつ選んで、**ア**から**オ**にマークしなさい。

(c) 人間と人間の深いフれ合いや結びつき、

〔解答記入欄**ア**〕

- ① 学校のトクシヨクを紹介する。
- ② みかんの苗木をイシヨクする。
- ③ 布のすべすべしたカンシヨク。
- ④ 会場を派手にソウシヨクする。
- ⑤ 銀行にシウシヨクする。

(d) 本来のキノウに近づけようとする

〔解答記入欄**イ**〕

- ① 彼の人生はクノウに満ちていた。
- ② 期日までにノウヒンする。
- ③ 各国のシユノウが集まる。
- ④ ノウドウテキに行動する。
- ⑤ ノウタンのつけ方が素晴らしい絵。

(f) 情報量はボウダイになり、

〔解答記入欄**ウ**〕

- ① 温めると空気はボウチヨウする。
- ② 将棋の名人の座をボウエイする。
- ③ ボウエキの自由化に尽力する。
- ④ 運動してシボウを燃やす。
- ⑤ カエルのカイボウをする。

(t) そのコウイの本来の意味に近いのかもしれませんが。

〔解答記入欄**エ**〕

- ① 図書イインになる。
- ② 伝統的なイフクをまとう。
- ③ イアツテキな態度をとる。
- ④ ムサクイに選ばれた。
- ⑤ 社会的チイの向上。

(w) 子どもたちの「心をユさぶる」のだと思います。

〔解答記入欄 **オ**〕

- ① 日本ブヨウをたしなむ。
- ② 意外な知らせにドウヨウする。
- ③ エイヨウのバランスを考える。
- ④ ヨウチュウがさなぎになる。
- ⑤ 子どもの人権をヨウゴする。

問一 傍線部 (a)・(b)・(h) と異なる意味を持つものを後の①から⑤までの中からそれぞれ一つ

ずつ選んで、**カ**から**ク**にマークしなさい。

(a) 対話

〔解答記入欄 **カ**〕

- ① ボートで対岸に向かう。
- ② 一対のいすとテーブル。
- ③ 彼女とは初対面だ。
- ④ 四角形に対角線を引く。
- ⑤ 対向車とすれ違う。

(b) 強調

〔解答記入欄 **キ**〕

- ① 本番に向けて体調を整える。
- ② 売り上げが好調な商品。
- ③ 念入りに調査する。
- ④ 機械の調子が戻った。
- ⑤ 仲間と歩調を合わせる。

(h) 重視

〔解答記入欄 **ク**〕

- ① 日本映画界の重視。
- ② 重要なことを記録する。
- ③ リーダーの重責を果たす。
- ④ 重箱におせちをつめる。
- ⑤ 問題解決に重点を置く。

問一 傍線部 (a)・(i) の意味を後の①から④までの中からそれぞれ一つずつ選んで、**ノ**・**ハ**にマークしなさい。

(a) 年ごろ行ひて

〔解答記入欄 **ノ**〕

- ① 長年の間
- ② つい最近
- ③ 年齢的に
- ④ いつでも

(i) やうやうおはして

〔解答記入欄 **ハ**〕

- ① さっそうと
- ② しだいに
- ③ やつとのこと
- ④ おごそかに

問一 傍線部 (b)・(c)・(f)・(g)・(j) の主語の組み合わせとして最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**ヒ**にマークしなさい。

- | | | | | | |
|---|--------|--------|--------|-------|----------|
| ① | (b) 聖 | (c) 聖 | (f) 獵師 | (g) 童 | (j) 聖 |
| ② | (b) 獵師 | (c) 聖 | (f) 童 | (g) 聖 | (j) 普賢菩薩 |
| ③ | (b) 聖 | (c) 獵師 | (f) 獵師 | (g) 聖 | (j) 普賢菩薩 |
| ④ | (b) 獵師 | (c) 聖 | (f) 童 | (g) 童 | (j) 聖 |
| ⑤ | (b) 聖 | (c) 獵師 | (f) 獵師 | (g) 童 | (j) 普賢菩薩 |

(注) ○ 愛宕の山

○ 行ふ

○ 聖

○ ゑぶくろ

○ 干飯

○ おぼつかなさ

○ 普賢菩薩

○ をいをい

○ 尖矢

○ 一町

|| 京都市にある山。

|| 修行する。

|| 厳しい修行をして、俗世を離れて暮らしている、徳の高い僧侶。

|| 旅などに出るとき、食べ物を入れて持っていく袋。

|| 乾燥させてたくわえておく飯。

|| 頼りなさ。

|| 仏教の悟りや修行をつかさどると言われる菩薩。白い象に乗っている。

|| おお、おおという感泣の声。

|| やじりの鋭くががっている矢。

|| 約一〇九メートル。

問三 空欄 (m)・(q)・(u)・(v) に入る言葉の正しい組み合わせを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**ケ**にマークしなさい。

- ① m つまり q しかし u 一方で v だから
- ② m つまり q そして u しかも v さらに
- ③ m すると q しかし u しかも v だから
- ④ m つまり q そして u 一方で v さらに
- ⑤ m すると q しかし u しかも v だから

問四 傍線部 (e)「どんどん」・(k)「その」・(n)「さまざま」・(o)「それ」・(r)「怖かった」の品詞の正しい組み合わせを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**コ**にマークしなさい。

- ① e 連体詞 k 代名詞 n 連体詞 o 名詞 r 形容動詞
- ② e 副詞 k 副詞 n 連体詞 o 副詞 r 連体詞
- ③ e 副詞 k 連体詞 n 形容動詞 o 名詞 r 形容詞
- ④ e 連体詞 k 連体詞 n 連体詞 o 形容詞 r 形容動詞
- ⑤ e 副詞 k 代名詞 n 形容動詞 o 連体詞 r 形容詞

問五 傍線部①から⑤の「た」の中に一つだけ用法が異なるものがある。それを選んで、**サ**にマークし、それと同じ用法のものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**シ**にマークしなさい。

- ① 友だちと図書館で会った。
- ② 駅に着いたときに気づいた。
- ③ たいした|ことではない。
- ④ 汚れた|服を|いねいに洗う。
- ⑤ たった|今、妹が|帰ってきた。

問六 傍線部 (i)・(j)・(p) の言葉の本文中の意味として最も適切なものを後の①から⑤までの中からそれぞれ一つずつ選んで、**ス**から**ソ**にマークしなさい。

(i) 斜め読み

〔解答記入欄**ス**〕

- ① 言葉の一つ一つの意味をよく考えて読むこと
- ② 細かい部分は飛ばしておおまかに読むこと
- ③ 文章の意味は考えずに文字だけ読むこと
- ④ 全体をさっと読んでから改めて読むこと
- ⑤ 声に出さずに目で追って読むこと

(j) 拾う

〔解答記入欄**セ**〕

- ① あちこちから集める
- ② 浮かびあがらせる
- ③ 生かして用いる
- ④ 取り上げてまとめる
- ⑤ 多くの中から選び出す

(p) 結ばれて

〔解答記入欄**ソ**〕

- ① 自由に解き放たれて
- ② 生き生きと輝いて
- ③ 深くつながれて
- ④ どっぴりとひたって
- ⑤ 大きく成長して

2 次の古文を読んで、後の問一から問九にそれぞれ答えなさい。

昔、愛宕の山に、久しく行ふ聖ありけり。年(a)ころ行ひて、坊を出づる事なし。西の方に獵師あり。この聖を貴みて、常にはまうでて、物奉りなどしけり。久しく参らざりければ、多ぶくろに干飯(d)など入れて、まうでたり。聖悦びて、日ごろのおほつかなさなどのたまふ。その中に、居寄りてのたまふやうは、「この程いみじく貴き事あり。この年ごろ、他念なく経をたもち奉りてある験やらん、この夜ごろ、普賢菩薩象に乗りて見え給ふ。今宵とどまりて拝み給へ」といひければ、この獵師、「世に貴き事にこそ候なれ。さらば泊まりて拝み奉らん」とてとどまりぬ。

さて聖の使ふ童のあるに問ふ。(f)「聖のたまふやう、いかなる事ぞや。おのれも、この仏をば拝み参らせたりや」と問へば、童は、「五六度ぞ見奉りて候」といふに、獵師、我も見奉る事もやあるとて、聖の後に、いねもせずして起き居たり。九月廿日の事なれば、夜も長し。今や今やと待つに、夜半(4)過ぎぬらんと思ふ程に、東の山の嶺より、月の出づるやうに見えて、嶺の嵐もすさまじきに、この坊の内、光さし入りたるやうにて明くなりぬ。見れば、普賢菩薩象に乗りて、やうやうおはして、坊の前に立ち給へり。(j)

聖泣く泣く拝みて、「いかに、ぬし殿は拝み奉るや」といひければ、「いかがは。この童も拝み奉る。をいをい、いみじう貴し」とて、獵師思ふやう、聖は年ごろ経をもたもち読み給へばこそ、その目ばかりに見え給はめ、この童、我が身などは、経の向きたる方も知らぬに、見え給へるは、心は得られぬ事なりと、心のうちに思ひて、この事試みてん。これ罪得べき事にあらずと思ひて、尖矢を弓につがひて、聖の拝み入りたる上よりさし越して、弓を強く引きて、ひやうと射たりければ、御胸の程に当たるやうにて、火を打ち消つごとくにて、光も失せぬ。谷へとどろめきて、逃げ行く音す。聖、「これはいかにし給へるぞ」といひて、泣き惑ふ事限なし。男申しけるは、「聖の目にこそ見え給はめ、我が罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて、射つるなり。実の仏ならば、よも矢は立ち給はじ。されば怪しき物なり」といひけり。夜明けて、血をとめて行きて見ければ、一町ばかり行きて、谷の底に大きな狸、胸より尖矢を射通されて、死して伏せりけり。

聖なれど、無智なれば、かやうに化かされけるなり。獵師なれども、慮ありければ、狸を射害し、その化をあらはしけるなり。

〔『宇治拾遺物語』 卷第八による〕

- | | | | | |
|---|----------|----------|----------|---------|
| ① | (1) 炉辺談話 | (2) そば | (3) 話しかけ | (4) 親近感 |
| ② | (1) 夏炉冬扇 | (2) きっかけ | (3) 語りかけ | (4) 親近感 |
| ③ | (1) 炉辺談話 | (2) きっかけ | (3) 話しかけ | (4) 優越感 |
| ④ | (1) 夏炉冬扇 | (2) そば | (3) 話しかけ | (4) 優越感 |
| ⑤ | (1) 炉辺談話 | (2) そば | (3) 語りかけ | (4) 親近感 |
| ⑥ | (1) 夏炉冬扇 | (2) きっかけ | (3) 語りかけ | (4) 優越感 |

問十五 次の①から⑤までの中から本文の内容と合致するものを一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 音読しないと著者が本当に言いたいことがわかるようにはならないため、昔のように読書は音読を基本とするのがよい。
- ② 人格を持った「私」がしゃべることを意味する「語る」と異なり、「話す」は内面を表すものではないので、冷たい感じを受ける。
- ③ 「語り言葉」を、本を読むときだけでなく「学ぶ」ときにも用いることで、聞き手の心が動き、深く学ぶことができる。
- ④ 最近日本で「読み聞かせ」が盛んになったのは、語る言葉こそが子どもたちの心に届くものだと気づいた人が増えたからである。
- ⑤ 音読をすると自分の中で気づき生まれ、著者と対話をするような体験ができ、聞き手の心を動かす語りができるようになる。

問七 傍線部（g）「いかに」が直接かかる一文節として最も適切なものを次の①から⑤の中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 早く
- ② 取り入れるかが
- ③ 重視されるように
- ④ なって
- ⑤ いきました

問八 傍線部（1）「和語」の例として最も適切なものを次の①から⑤の中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 平和
- ② ガラス
- ③ 幸福
- ④ 豊か
- ⑤ ルール

問九 傍線部（I）「そのような経緯を知ると、子どもたちが小学校で出される音読の宿題などは、貴重な機会だと思えます」とある。筆者がそう思う理由として最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 本を速く読む技術を身につけるためには、まず音読して内容を理解できるようにすることが必要だから。
- ② 子どもたちが音読の宿題をすることによって、音読して著者と対話するという本来の読書をするところから、子どもたちが字を正しく読めるようになっていくのを確かめることができるから。
- ③ 黙読しているだけでは、子どもたちが字を正しく読めるようになっていくのを確かめることができないから。
- ④ 情報化社会では、ゆつくりと声を出して本を読む時間が取れるのは時間にゆとりのある子どもたちだけだから。
- ⑤ 効率を重視する現代社会では若い世代ほど速読中心になり、音読を宿題としなければ著者とじっくり向き合えないから。

問十 傍線部(Ⅱ)「『かたる』という言葉を復権させてはどうかと思っています」とある。その理由として最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 「かたる」という言葉は昔からある言葉なので日本人の心に届きやすく、同じ民族であることを実感する効果が得られるから。
- ② 語り婆を通して友だちと世界を共有していた子どものころを思いだし、今の子どもたちにも同じ体験をさせてあげたいと思ったから。
- ③ 「かたる」という言葉にはさまざまな意味があり、口に出して言うという意味だけの「話す」という言葉よりも奥深いから。
- ④ 昔の人は「はなす」ではなく「かたる」という言い方をしており、「かたる」のほうが広い意味を持っていてよい学びにつながるから。
- ⑤ 「はなす」のではなく「かたる」ことによって、その場で聞いている者どうしの世界が共有されて話の内容が心に届くから。

問十一 傍線部(Ⅲ)「同様の意味合い」とはどういうことか。最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 話を聞く子どもたちの心に民族に伝わる教訓を刻む働きがあるということ。
- ② 語り手を教師として聞き手たちに生きる知恵を与える働きがあるということ。
- ③ 話を通して聞き手の不満を解消し、仲間意識を高める働きがあるということ。
- ④ 聞き手たちに民族としての同一性を自覚させる働きがあるということ。
- ⑤ 子どもの頃から聞き手たちの集団への帰属意識を育てる働きがあるということ。

問十二 次の部分は本文中のからのどこに入るか。後の①から⑤までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

これはコミュニケーション、交わることを指しています。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問十三 空欄(s)に入る最も適切な言葉を次の①から⑥までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

- ① 聞かせ読み
- ② 読み語り
- ③ 話し聞かせ
- ④ 読み話
- ⑤ 言い聞かせ
- ⑥ 昔語り

問十四 次の傍線部(Ⅳ)「囲炉裏端で皆で語る」についての教師と生徒A・生徒Bの会話である。その中にある空欄(1)から(4)に入る言葉の正しい組み合わせを後の①から⑥までの中から一つ選んで、にマークしなさい。

生徒A	「囲炉裏端で皆で語る」とありますが、これを表す四字熟語がありますよね。
教師	はい、囲炉裏や暖炉のそばでくつろいでおしゃべりすることという意味を表す(1)という四字熟語がありますよ。
生徒B	そうですね。
生徒A	ここに「端」とありますが、これが(2)という意味になるんですね。
教師	そうですね。「端」にはいくつか意味がありますが、ここでは「囲炉裏」の(2)ということですね。
生徒B	あたたかい場所で家族や友だちと一緒にいることで心がほぐれるのでしょうかね。
教師	アメリカのある大統領は、ラジオを通じて、各家庭に自分の政治についての意見を届け、それを(1)と称したそうです。
生徒A	本文の内容に照らし合わせると、家庭でくつろいでいる時間に、気楽に国民に(3)、政策への理解を求めるということですね。
教師	その方法には、国民の心を動かし、(4)を持ってもらう効果がありそうですね。